

編集後記

いよいよ1949年も暮れて行く。この暮れこそ久し振りで暮れの気分を味わいものである。この数年、暮れては明け、明けては暮れたが、この明けが明けたと思うような明けを迎えた事はなかつた。明けきれない夜では暮れの気分も出ないのも無理はなかつた。然し来年こそ、1950年こそ、本当に明けるだろうという話が強くなつて来ている。この暮れこそ、一つ久し振りで暮れの気分を味わおうという訳である。

× ×

「病院」も愈々年を越す。顧ると半年ではあるが、曲りなりにも所期の軌道を進んで来られたと思う。来年からは更に本格的な活動に入る積りである。御期待と御支援をお願いする。

× ×

本号には、ジョンソン大佐から御寄稿として、日本医師会総会の際の御講演の要旨を頂いた。医育上に於ても、病院の問題が重大であり、日本医師会の関心を期待しておられる。当然の事ではあるが、改めて反省されることが多い。

× ×

病院の成績とは何ういうことであろうかということが、今迄日本では検討されていない。あの病院は成績がよいというと、財政的に黒字であるということと説明されるか、せいぜい取扱う患者が多いということ位で片づけられている。病院の成績はその治療成績でなければならない筈だ。この病院本来の使命を如何にはたしているかという成績に当然深いメスを加えなければならない。一般に日本の病院の医師は、一人一人の患者については熱心に診療をしているのであろうが、病院全体としての治療の成績を反省した事が無い。病院の医師には、その成績を以つて病院の真の成績であると認めさせる権限があり、又その義務を有す

るものであろう。「内科的疾患の季節性」などという問題が、取り上げられた事は、このことを反省する一步をふみ出したと見る可きである。病院の医師は、病院に対し、又社会に対しての責任として、診療カードの整理を始めなければならない筈である。そしてこそ医師が病院の核心的存在として社会が改めて認めることになるであろう。

× ×

社会保障制度の確立、医療機関の整備、医療経済、病院と診療所との聯繫、公的医療機関と開業医の協力、医療と公衆衛生の平行的運営、医師の教育等従来から未解決の整理しなければならない重大問題が山積している。これらの解決には、総て病院問題が中心となる。愈々勉強しなければならない。ドンドン御研究の発表を御願ひする。

× ×

世の中から矛盾をなくし切ることは不可能なことである。然し、矛盾が一つでも解決される度に社会が進歩する。いゝ換れば、社会の進歩とは社会の矛盾を解決して行くことである。この矛盾に対してはお互に云うべきとは云わねばならない。但しその文句は文句のみで終らぬよう、その解決にお互に努力しなければならないだろう。

病院の進歩をはばむものはその内に存在するその矛盾である。お互にその矛盾を摘出して、病院の進歩を計るべきである。その手術室は雑誌「病院」である。手術室の管理は未だ未だ改良の余地が多いかも知れないが、又名外科医の登場を期待しなければならない。

× ×

来年こそ、日本の病院は一大進歩をするだろうと、いう夢をいだいて除夜の声を聞く。

編集委員

橋本 寛敏(聖ルカ^カ病院) 尾村 偉久(厚生省)
吉田 幸雄(厚生省) 守 屋 博(東京第^第一病院)
千種 峯藏(厚生省) 木下 正一
久松榮一郎